

環境影響評価集計表 環境影響に関する研究一覧

(集計対象:平成26年度 調査実施年度:平成27年度)

部局	No.	著書／論文／発表題目等	氏名	研究の概要
人文学部	1	共著「緑のダムの科学——減災・森林・水循環」	茅野恒秀	蔵治光一郎・保屋野初子編、築地書館。第2章中の1節「多様な主体による森林管理と地域づくり」(pp.126-140)を執筆。利根川上流で試みられている、国有林、自然保護団体、地元住民による「赤谷プロジェクト」について紹介した。
	2	共著論文「過疎地域の地域づくりを支える人的ネットワーク——岩手県葛巻町の事例」	茅野恒秀	八巻一成らとの共著。『日本森林学会誌』第96巻4号。地域の自然地域資源を活用した地域づくりの先進地域として知られる岩手県葛巻町を対象として、地域づくりにおける人的ネットワークが果たす役割を社会ネットワーク分析によって把握した。
	3	学会発表「固定価格買取制度はこれで良いか? :地方の実態と変革の戦略を考える」	茅野恒秀	環境社会学会大会(福島大学)。2011年8月に成立した再生可能エネルギー特別措置法によって発足した、再生可能エネルギーの固定価格買取制度について、再生可能エネルギー事業が急増した北東北3県の動向をふまえて分析した。
経済学部	1	2014年夏季における諏訪湖の水平・垂直水質分布。環境科学年報—信州大学—, 37, 53-66.	柳町晴美・宮原裕一・山本雅道・花里孝幸(共著)	2014年夏季における諏訪湖の水質に関して、観測要素の水平分布と垂直分布を解析した。
	2	老衰死亡率の季節変化。日本地理学会発表要旨集, No.86, 92.	柳町晴美	老衰死亡数の推移, 老衰死亡割合の推移, 老衰死亡率の季節変化に関して分析した。
	3	都道府県別老衰死亡率の地域差。日本地理学会発表要旨集, No.87, 184.	柳町晴美	都道府県別老衰死亡率の地域差に関して、4大死因死亡との関連から分析した。
法曹法務	1	信州大学民事法研究会にて発表「諏訪地域製糸業と信玄公旗掛松事件の関係について——絹の道と権利の濫用」	後藤泰一	信玄公旗掛松が蒸気機関車の煤煙により枯死した事件(今日の公害事件)であるが、これと中央本線の全通により発展した諏訪地域製糸業とのかかわりを探ったものである。
	2	講演「環境刑法と原発規制について」	三枝 有	中国広州外貿外語大学において、日本と中国との環境刑法の法整備の違いを踏まえた両国の原発規制の差異について講演を行った。詳細は信州大学法学論集第24巻にて掲載予定。
理学部	1	“Kinetics of Cluster-mediated Filling of Water Molecules into Carbon Micropores”, Journal of Physical Chemistry C, 2015, 119, 4118-4125.	Hiroimitsu Ito, Taku Iiyama*, Sumio Ozeki,	カーボン細孔への水の吸着速度の精密測定法の開発を行った。吸着メカニズムの解明は、多孔質固体を使った有害物質除去の効率化につながる成果である。
	2	“Kinetic Analysis of the Adsorption of Polar and Nonpolar Molecules onto Ordered Meso-porous Silica Using the Pressure-Feedback Method”, Chemistry Letters, 2015, 44, 524-526.	Hiroimitsu Ito, Keisuke Asakura, Tomohiro Ogino, Taku Iiyama*, Sumio Ozeki, Kazuyuki Nakai	開発した吸着速度の決定法を用いて、シリカ細孔への水、窒素の吸着速度の精密測定を行った。吸着メカニズムの解明は、多孔質固体を使った有害物質除去の効率化につながる成果である。

全学教育機構	1	平成26年度「グリーンイノベーション研究支援事業」長野県における木質バイオマスエネルギーの利用拡大・定着と森林保全との両立のための持続可能な最適利用モデル構築・人材育成についての基礎的研究	植木達人 他7名 (学内研究分担者として参加)	中信地域を中心とした範囲での、木質バイオマスの供給可能性を算定し、エネルギー転換の潜在的需要量を算定した上で、持続可能な最適利用モデルを示し、県や市町村に基礎的情報を提供する。
	2	発表「サラワク、ブナンの遊動性と定住化」、熱帯の「狩猟採集民」に関する環境史的研究会(国立民族学博物館)、4月27日[単独]	金沢謙太郎	マレーシア、サラワク州の熱帯雨林におけるブナン人の生活様式の変化を歴史的に考察しています。
	3	発表「Sedentalization and nomadism: the political ecology of the hunter-gatherers in Sarawak」, International Union of Anthropological and Ethnological Sciences (幕張メッセ)、5月15日[単独]	金沢謙太郎	ポリティカル・エコロジーの視点からサラワクの狩猟採集民、ブナン人の定住化と遊動性に関して議論しています。
	4	学会セッション司会及び討論、環境社会学会、福島大学、6月14日	金沢謙太郎	「環境利用をめぐる慣習と権利」というテーマのもと、5人の報告者とともに議論しています。
	5	研究会の主催と討論、ウルバラム研究会(第2回)、信州大学、7月3日	金沢謙太郎	2つの研究報告をもとに、熱帯原生林における狩猟採集民と農耕民の共生に関する議論を行っています。
	6	フィールドワーク、マレーシア・サラワク州、9月1日-9月19日(9日-19日まで信州大学、分藤大翼准教授と同行)	金沢謙太郎	昨年度に引き続き、マレーシア、サラワク州で環境人類学フィールドワークを行っています。
	7	研究会参加、信州大学山岳科学研究所(国際シンポジウム)、信州大学農学部、10月7日	金沢謙太郎	信州大学が招聘したボゴール農科大学のTiryana先生らとインドネシアの森林科学の状況に関して意見交換しています。
	8	フィールドワーク、ミャンマー、3月21日-3月27日	金沢謙太郎	熱帯雨林産物のバリューチェーンに関するフィールドワークを行っています。
	9	フィールドワーク、ラオス、3月28日-3月31日	金沢謙太郎	熱帯雨林産物のバリューチェーンに関するフィールドワークを行っています。
	10	教養科目としてのLCA授業の導入とその教育効果	小林充	製品やサービスのCO2排出量や地球温暖化影響量を評価するライフサイクルアセスメント(LCA)を広く普及するため、信州大学の教養科目としての授業内容やその効果について研究した。
	11	製品・サービスのライフサイクルアセスメント	小林充	各社の製品・サービスのライフサイクルアセスメントを実施し、環境負荷量や地球温暖化等の環境影響量および社会コストを算出した。
	12	製品のカーボンフットプリント・エコリーフ等の環境ラベル	小林充	各社の製品のライフサイクルアセスメント評価を実施し、カーボンフットプリントやエコリーフおよびエコマーク等の環境ラベルによる情報公開について研究した。

全学教育機構	13	「森の狩猟民と動物のいのち」	分藤大翼	明治大学理工学研究科 新領域創造専攻主催のシンポジウム「動物のいのち」において発表をおこなった。(2014/11/29)
	14	平成25年度信州大学新入生の体力傾向の分析：運動の実施状況の違いによる検討	廣野 準一, 速水 達也, 杉本 光公	本研究では、体力測定の結果を運動・スポーツの実施頻度別に検討を行った。その結果、以下のことが考えられた。1) 運動・スポーツの実施頻度は、形態的指標にはあまり影響を及ぼさない。2) 運動・スポーツの実施頻度が高いほど、機能的体力指標は高い値を示した。3) 特に全身持久力に関しては、運動・スポーツの実施頻度に伴って向上する可能性が示唆された。
医学部	1	子どもの環境と健康に関する全国調査(環境省 エコチル調査)	野見山哲生他	環境中にある化学物質が子供の健康に影響を与えていないかを検証する疫学調査を長野県上伊那地域で実施している。
	2	微小粒子状物質等の健康影響解明の為の疫学調査	野見山哲生他	微小粒子状物質の県境影響解明の為の疫学調査を文部科学研究費基盤Cで実施した。
	3	微小粒子状物質等大気汚染部室による肺機能への発達への影響調査	塚原照臣他	平成23～26年度にわたり、信州大学附属松本小学校、長野小学校を対象にPM2.5と健康影響に関するコホート調査に実施班の委員として取り組んでいる。(環境省)
	4	長野県上伊那地域における「子供の健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」	津田 洋子, 塚原 照臣, 三澤 由佳, 野見山 哲生他	長野県農村医学会第71回総会において、エコチル調査の取組み概要について報告した。
	5	エコチル調査甲信サブユニットセンターでの質問票回収率に寄与する要因の検討	三澤 由佳, 津田 洋子, 塚原 照臣, 野見山 哲生他	第73回日本公衆衛生学会総会において、質問紙回収率をアップさせるための取組みについて報告した。
病附院属	1	医療関連感染と制御□9医療現場における感染制御 2) 環境、医療器材、医療品類に関する制御 (1) 医療機関内の環境に関する制御日本防菌防黴学会誌43,95-100,2015	金井信一郎	医療機関内で必要な環境整備について(レジオネラ対策、アルペルギウス対策、多剤耐性菌対策、防護環境における環境整備についてなど)